

## 「バイオレイヤー干渉法を用いた分子間相互作用解析」

このたび研究基盤センターアイソトープ部門は、新たに生体分子間相互作用解析装置（ザルトリウス社 BLItz）を設置しました。既設機器のBiacoreやカロリメーターとは異なるタイプの相互作用解析装置です。

どのような原理で、どのような解析ができるのかについて、技術担当者に解説してもらいます。本学所属の方であればどなたでもご参加いただけます。

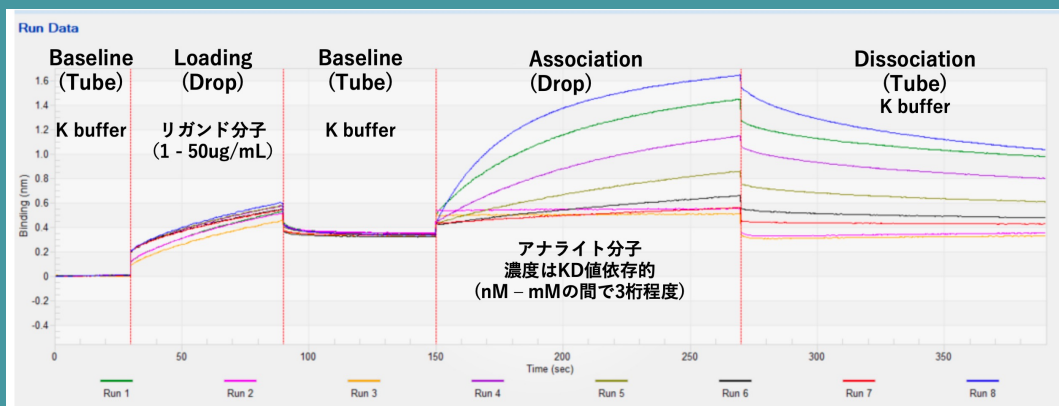
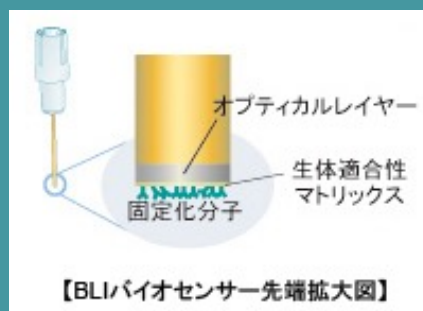
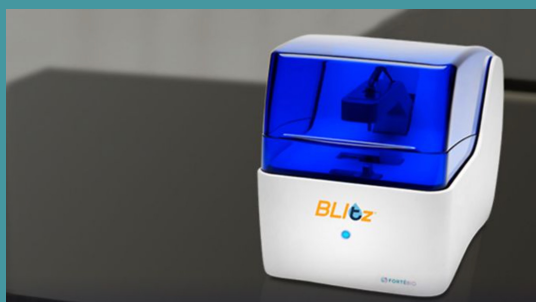
- **日程：2021年9月1日（水） 1部：13:20～14:05（セミナー）**  
**2部：14:15～15:00（操作説明・コツ等）**

- **方法：Zoomによるオンライン形式**

- **講師：丸山 雄介（ザルトリウス・ジャパン株式会社）**

### 【装置概要】

- ・従来のSPR法とは異なる、バイオレイヤー干渉法（BioLayer Interferometry: BLI）を採用
- ・必要なサンプル容量は4  $\mu$ l
- ・流路を用いないため、メンテナンスフリー
- ・アプリケーション：キネティクス解析、タンパク質定量、タンパク質の有無の検出など
- ・バイオセンサー：ストレプトアビジン標識、Ni-NTA標識など様々なセンサーをラインナップ



【お申込み方法】氏名・所属を**8/27（金）までに**メールにてお知らせください  
(件名は「テクニカルセミナー参加希望」としてください)

【お問合せ、お申込み先】

研究基盤センターアイソトープ部門 (csrea-isotope2@research.kobe-u.ac.jp)